

2021年度の事業報告書

2021年4月1日から 2022年3月31日まで

特定非営利活動法人フォーラムひこばえ

はじめに

2021年度は長年の懸案事項であった新しい建物を建てるという大きな目標に向かって前進した年であった。資金繰り、行政との交渉、土地や建物の整理など、課題のひとつひとつのボリュームが大きく何度も困難に直面したが、役職員をはじめとして常に支えてくれる会員や利用者、協力者、ひこばえ建築委員会「ひこば YELL」の取り組みに励まされながら、乗り越えることができた。課題はまだ多いが、丁寧に対応しながら、常に法人の活動の趣旨に立ち返り、歩んでいきたいと考える。

【法人運営】

1. 役員会を年間6回開催した。新築工事に向けての行政との交渉や、資金繰り、入札などが主な議題であった。
2. 施設長会議を年間12回開催し、施設間の横の連携を取りながら、法人全体の方向性のもとになるもの、職員の進むべき方向の示唆、法人趣旨に基づいた職員育成について協議した。
3. 新規事業「子ども第三の居場所」を運営するため日本財団助成金に応募した。応募にあたっては市民活動総合センターや京都市右京区社会福祉協議会にアドバイスなどいただいた。結果、建築費と運営費合わせて5000万円強の助成の内定を得ることができた。
4. 建築に関してはもえぎ設計により、新築子ども館、本館改修の設計をお願いし、指名競争入札によりアラキ工務店が施工することに決まった。着工は11月中旬に行われている（完成は2022年9月の予定）
工事に関する資金については、福祉医療機構より90,900万の借入が決定した。また日本財団の助成により工事費として5,000万の助成を受けることが決定した。実際の借入れや助成については工事完了後となるため、それまでの支払いについては京都信用金庫よりつなぎ融資を借入れ、つなぎ融資の返済は2022年12月25日となっている。
5. 防災環境・感染症委員会、虐待防止・身体拘束適正化委員会、ハラスメント防止委員会の立ち上げを行い、運営に乗り出した。
6. 引き続きコロナ感染拡大防止に努め、事業運営、労務管理を行った。それぞれの事業で利用者の利用自粛が目立ったり、実際にコロナ陽性などが発生し、短期間の休所を余儀なくされた。収入の減と人件費のバランスなどで、工事に係る諸費用の支出も重なり、経営を圧迫した。
7. 建築に向けて寄付の呼びかけやクラウドファンディングを行い、多数の方から協力の形として寄付を受けられたことは、励みである。

【ひこばえ事業】

2021年度のひこばえ事業は、コロナ禍で見えてきた課題をもとに取り組みをおこなう1年となった。サークル休止中に連絡のとれない方や、長年参加されていなかった方の存在など、17年間の活動を見直し、改めてサークル活動の参加にあたっての手続きを見直す機会となった。

また、第三の居場所開設に向けて、以前から取り組んでいた学習支援に加えて食堂を開始した。

手探りな状態ではあるが、新しい建物で、多世代の交流できる事業開始に向けて準備を進めている。

1. サークル活動

①サークル活動の一覧

サークル名	参加人数	サークル名	参加人数
楽しくグループピアノ	6名	編物・手芸教室	3名
歴史散歩	24名	絵手紙の会	12名
英語を話そう	7名	楽しい万葉集	4名
歌のサロン	5名	パソコン・スマホサークル	4名
楽しく！ボイストレーニング	14名	男の料理道場	4名
お菓子を作ろう	6名	リコーダーアンサンブル	5名

②コロナ禍でのサークル活動

感染症拡大による休止期間

- ・2021年4月下旬～6月下旬
 - ・8月下旬～9月下旬
 - ・1月下旬～3月上旬
- (いずれもサークルの特性、参加人数などにより、サークルごとに対応。)

②登録手続きの見直し

サークル活動開始から17年が経ち、改めてサークル活動参加にあたって登録方法の見直しや道中の保険の加入、事務手数料の徴収(年間500円)をおこなった。事務手数料の徴収は初めての試みであったが、参加者のみなさんに説明する機会を持つことで改めてサークル活動の運営方法を知ってもらう機会となった。

2 利用者・会員・地域をつなぐ活動

①ひこばえさんかん日：1月21日(金)22日(土)※22日(土)は“マルシエール”と共催
内容：物産展(事前予約) ひこばえ紹介冊子作成

昨年度に引き続き対象を利用者に限定して開催。ひこばえの活動を知ってもらうため、紹介冊子を作成し利用者に配布した。

また、ひこばえ事業と位置付けるものではないが、ひこばえ建築委員会「YELL」の会議を年間12回行った。この会の活動はひこばえ事業の在り方にも示唆を与えてくれている。

3 地域の生活を支える活動

地域にある居場所としてひこばえに通って来られるが数名いる。週に数回来て手作業や事務作

4 社会参加・就労に向けた支援事業の受け入れ

今年度は京都市社協と連携して「チャレンジ就労体験」の受け入れをおこなった。これまで就労経験のない方が、社会参加・就労体験のため週2回事務局にて作業をおこなっている。

5 第三の居場所開設に向けて

以前からおこなっていた学習支援“えんぴつカフェ”に加えて食堂の取り組みを開始した。現在は子どもの参加が中心であるが、今後は多世代・地域に広げていく。

【うたの・ひこばえ児童館事業】

1. 児童館事業(乳幼児, 自由来館, くらぶ活動, ひろば事業, 学習支援等)

2021年度はまさに「withコロナ」での事業展開となった。感染の拡大状況に応じてその都度、事

業の休止や開催方法の工夫など協議を重ねて実施した。感染の落ち着いた10月から12月には、乳幼児親子向けの子育てひろばや右京区全体の取組として「サンサにこにこ広場（民生児童委員協議会主催）」に参画、また「右京ふれあいフェスタ」のステージ企画に児童館手話くらぶの子どもたちが「手話がたり」で出演した。取組の定期開催が難しくなる中、児童館が地域に開放している情報をリアルタイムに発信しようとInstagramを開設した。幼児くらぶや学童クラブ、学習支援や文庫の日の様子をアップした。

地域行事も中止になることが多く、連携が進まない状況ではあったが、夏休みには、少年補導委員会と共催で「うたのわいわいひろば」を児童館で開催、11月には、民生児童委員協議会と共催で京都市子育て支援任意事業「うたのなかよしひろば」を宇多野ユースホステルをお借りし、乳幼児親子対象の人形劇を開催した。

新型コロナ感染による閉館はなかったが、9月に児童館職員の家族が陽性となり、行政指示に応じて1か月の自宅待機となった。前例がなかったため、法人施設長会で協議し、該当職員の休暇の扱い、在宅ワーク（リモート会議、文献研修等）のしくみを作った。

児童館・放課後デイサービスの建設工事が着工し、7月に本館棟の引越しを行った。児童館の主な活動場所であった広場と本館棟が使用できなくなり、各事業の活動場所や内容の工夫が必要となった。草やきゅうくらぶやタグラグビーは近隣の研修施設である「指月林」をお借りし、日常の学童クラブの遊び場所としてはすりばち池公園や御室八十八か所に出かける機会を作った。

児童館監査が実施された。書面による指摘はなく、口頭指摘の改善指示のみであった。

2. 学童クラブ事業

子どもくらぶ(学童クラブ)は、新1年生21名が入会、6年生まで88名でのスタートとなった。新型コロナウイルスの感染状況で休会退会などの対応に追われた。小学校も学級閉鎖や本人や家族の感染により欠席せざるを得ない状況が続き、そのふりかえなどで1日の授業時間数が増え下校時間が遅い日が多くなった。高学年児童の活動時間を保障するため、週2回「高学年スペシャルデー」として通常より30分多く遊べる日を設定した。

コロナウイルス感染拡大や大雨など避難情報発令時の休館やお迎え依頼など保護者への連絡機会が増え、「緊急連絡ライングループ」を作った。

11月に次年度の学童クラブ利用料の改訂が提案され、従来の応能負担から所得ではなく、利用の分量に応じた一律の利用料設定となる応益負担に変更された。その結果、利用料が大幅に値上がりする世帯が生じた。高学年など利用時間や日数が少ない児童は退会という選択をされることが予想され、継続して6年間利用しやすい仕組みとして「おっきい子くらぶ」を法人事業として打ち出した。利用者へは「利用料改訂説明会」を密を避けるため数回実施し、個別相談にも応じた。

子どもたちは、長引くコロナ禍の状況に、臨機応変な対応に柔軟に対応する力を身に付ける一方で、主体的に物事に取り組むエネルギーや仲間どうしのつながり意識などの希薄さが垣間見えるようにもなった。各学年や希望者など集団の規模を小さくし、その中で子どもたちが「やりたい」取組を計画する機会を設けた。

3. 職員育成

新人職員を迎えたが、コロナ対応や建設工事に伴う引越し作業等でじっくりと各事業の目的な根幹を伝えることが十分に出来なかった。各担当者会議や介助員会議など定例の会議は行うも、年度末は職員の退職や休職で事業の振り返りをしっかりと行えなかった。2021年度の重点課題であった事業の「社会的使命」や「社会的課題」に十分論議をする時間が取れなかった。

【放課後等デイサービス 放課後くらぶひこばえ/放課後くらぶひこばえふう事業】

1. 利用者状況と職員体制

	放課後くらぶひこばえ	放課後くらぶひこばえふう
登録児童数	29名	24名
開所日数	290日	290日
延べ人数	3092名	2374名
一日平均	10.6人	8.18人
通学校	西総合 北総合 京都教育大附 盲学校 鳴滝 宇多野小 金閣小 衣笠中 北野中 御池中	常盤野 太秦 嵐山 安井 宇多 野 御室 西院 葛野 大將軍 西総合 京都学園
職員体制	6~8名/日 常勤 4名 非常勤 7名 運転手専属 2名 学生アルバイト	4~5名/日 常勤 2名 非常勤 3名 学生アルバイト

2022年3月31日現在

2. 新型コロナウイルス感染症の影響

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年であった。

感染対策としては、手洗いの励行、消毒、換気、少人数での活動などを行い、職員に対してワクチン接種を推奨した。1月ごろから子どもへの感染が拡大したことにより、学級閉鎖・学年閉鎖、感染の可能性のある兄弟児童の自宅待機などにより、欠席する児童が増え、2月に入り利用者の感染が判明したことにより、放課後くらぶひこばえは4日間の事業停止を余儀なくされた。

3. 京都市による実地指導

5月に放課後くらぶひこばえ、6月に放課後くらぶひこばえふうに対して、実地指導が行われた。放課後くらぶひこばえについては文書指導のみであったが、放課後くらぶひこばえふうについては、個別支援計画の作成および保護者への確認作業の遅れを指摘され、開所から自主点検を実施し、「個別支援計画未作成減算」になるところについては、介護給付費の返還を行った。

それ以外の指摘事項については、すでに改善済みもしくは改善に向けて取り組んでいる。

※個別支援計画…6か月以内に見直し、作成を行い、保護者に同意、受領した旨を署名いただく必要あり。個別支援計画作成にかかる一連のアセスメント、モニタリング、保護者面談の記録がない場合も減算の対象となる可能性あり。

4. 人材育成

外部研修がオンラインも活用しながら実施されることが増え、できる限り研修に参加した。

放課後くらぶひこばえでは、利用者の低年齢化と重度化に対して、支援の難しさが課題であり、放課後くらぶひこばえふうでは、障害特性と年齢に応じた支援や対応、不登校などの問題に対する支援のスキルアップが課題となってきている。

また、障害部門では法人独自のキャリアパスを作成した。今後は、それを活用し、職員自身がどのように成長していきたいのか、そのために必要な学びとは何かについて、考えながらスキルアップを図れるようにしていく必要がある。非常勤職員や学生アルバイトに対しても、研修への参加を促し、利用者の理解のための情報提供を行うことで、支援への意識を高められるようにしている。

5. 報酬改定後の経営面

令和3年度障害福祉等の報酬改定を受け、基本単価の引き下げが行われ、年度当初は2020年度より400万程度の減収を見込んでいたが、放課後くらぶひこばえについては、利用者の増員があり、1日の平均利用者数が10~11名となり、当初予算より約480万上回った。

放課後くらぶひこばえふうについては、土曜日を開所したこと、登録児童の増加があり、コロナによる利用者の欠席が多数みられたが、昨年と並みの収入となった。

報酬改定に伴い、職員配置基準が厳しくなり、10名の利用者に対して必ず2名の有資格者(保育士、児童指導員等)の配置、10名以上の利用のある日については、+1名の有資格者の配置が必須となった。有資格者の非常勤職員の確保のため、採用募集を継続して行っている。

6. 保護者支援

保護者会への考え方についてアンケート形式で保護者に調査を行った。2月に保護者の集いを企画したが、コロナ感染拡大により延期となった。

7. 他事業所や地域との関わり

①放課後くらぶひこばえ

- ・卒業を控えた利用者の生活介護での実習実施 →本人のコロナ感染により中止
- ・北区にある「地域の家」に関わりのある佛教大学の学生と交流→コロナ拡大により中止
- ・立命館大のサービスラーニングセンターの学生による子ども・福祉に関するボランティア体験プログラムの受け入れ(3月 2名×4日)

②放課後くらぶひこばえふう

- ・土曜日に行っていた学習の時間を、エバーコーヒーに場所を移し、「えんぴつカフェ on Saturday」として開催している。1月には子ども食堂も同時に行い、地域の子どもたちやボランティアとの交流を深めている。

【就労支援事業所ひこばえ・ひこばえ me】

1. 利用状況

(単位：人)

年度	就労支援事業所ひこばえ				ひこばえ me			
	年度末登録者数	開所日(日)	延利用人数	一日の平均利用者	年度末登録者数	開所日(日)	延利用人数	一日の平均利用者
2018	16	243	1,768	7.8	2	100	134	1.3
2019	13	239	1,988	8.3	5	238	1,003	4.2
2020	19	241	2,616	10.8	6	242	1,315	5.4
2021	19	238	2,629	11.0	11	237	2182	9.2

2. 就労支援事業所ひこばえ（就労継続支援B型事業）

①利用者支援及び作業

- ・引き続き利用者の働く場としてカフェ『エバーコーヒー』の運営(清掃含む)を行った。コロナウイルスの影響で売り上げは落ち込んだままで、以前の水準には戻っていない。
- ・カフェで販売する商品として、コーヒーのドリップパックづくりやその包装紙へのスタンプ押し作業などを行った。2年目に入った消しゴムはんこを使ったカレンダーづくりは、作品数を増やして売り上げも1年目を大きく上回った。
- ・感染予防に力を入れていたが、1月と3月に新型コロナウイルスの感染者が出て、事業所を休所する期間があった。今後も誰かが感染する可能性はあるが、さまざまな感染予防策を取りつつ感染発生の場合には皆で助け合っていきたいと思う。

- ②職員数 ・施設長1名（兼務）、生活支援員3名・職業指導員1名（常勤3名、非常勤3名）
※一日あたり平均の職員配置数は約4名

③防災訓練

- 1) 7月16日(金) 13:20~13:35 地震想定 2) 11月5日(金) 火災想定
3) 9月以降毎月1回、消火訓練を実施

④苦情解決・事故

職員・利用者の新型コロナウイルス感染症罹患（1月、3月）

3. ひこばえ me（生活介護事業）

①利用者支援

- ・4月から支援学校の卒業生5名を迎えて、登録は11名で一日平均は9.3名の利用があった。
- ・将来的にそれぞれの状況に応じて働いていくことを念頭に、仕事の練習としての『自立課題』やカフェから請け負ったスタンプ押しや袋作りなどの活動とともに、運動不足や気持ちをリラックスするためのレクリエーションや運動（主に散歩）などに取り組んだ。
- ・今後、働く練習主体の支援から、実際に働くことへ切り替えを進めていく時期にさしかかっていると思う。
- ・就労と同様に、新型コロナウイルス感染予防に様々な対策を取った。しかし3月に事業所内で感染が広がり、利用者5名、家族5名、職員2名が感染した。事業所は、まさに「運命共同体」であると感じた。様々な感染予防策を取りつつ、感染者が出た場合には適切な対応とともに皆で助け合っていきたいと思う。
- ・日テレ24時間テレビから、ワンボックスカー（車いす乗車可）の寄贈を受けました。

②職員数

- ・施設長1名（就労継続支援B型事業所のサービス管理責任者、管理者と兼務）

- ・生活支援員 4 名（常勤 2 名、非常勤 2 名）、看護師 1 名（非常勤）※一日あたり平均の職員配置数は約 5 名弱。

③防災訓練

①7 月 16 日（金）13:20~13:35 地震想定 ②11 月 5 日（金）火災想定

③9 月以降毎月 1 回、消火訓練を実施

④苦情解決・事故

利用者の誤飲（1 件）、職員・利用者のコロナウイルス感染症罹患（1 月、3 月）

4. 助成・寄贈等

①日本テレビ「24 時間テレビ『愛は地球を救う』番組より車両寄贈（3,427,210 円相当）

5. 研修

日程	曜日	研修名	参加者	種類
5 月 11 日	（ 火 ）	自閉症の基礎理解	3 名	事業所研修
5 月 26 日	（ 水 ）	感染症対策研修	全職員	事業所
5 月 30 日	（ 日 ）	法人の理念理解、職員交流研修	全職員	法人研修
6 月 29 日	（ 火 ）	西部自立支援協議会研修会	3 名	外部研修
7 月 22 日	（ 金 ）	救急救命講習	3 名	法人
7 月 27 日	（ 火 ）	利用者と接するにあたって	4 名	事業所
8 月 19.26	（ 木 ）	マナー研修	1 名	外部
8 月 23~25	（ ）	相談支援初任者研修（web）	1 名	外部
9 月 10 日	（ 金 ）	サービス提供責任者養成研修①	1 名	外部
10 月 21.22	（ ）	サービス提供責任者養成研修②③	1 名	外部
8/27 9/7	（ 金 ）	虐待防止研修	全職員	事業所
9 月 13 日	（ 金 ）	「改めて『発達障害』とは何か」	1 名	外部
10 月 20.21	（ ）	サービス管理責任者養成研修	1 名	外部
10 月 26 日	（ 火 ）	個別支援計画とは	全職員	事業所
11 月 25 日	（ 木 ）	非常時の連絡方法（小型トランシーバー使用訓練）	全職員	事業所
11 月 29 日	（ 月 ）	感染症対策研修	全職員	事業所
1 月 21 日	（ 金 ）	みんなの学校 鑑賞	5 名	法人
2 月 7 日	（ 月 ）	記録の書き方	2 名	外部
2 月 8 日	（ 火 ）	自立支援協議会 地域懇談会	1 名	外部
3 月 2 日	（ 火 ）	虐待防止研修	2 名	法人
3 月 23 日	（ 水 ）	相談支援に関する研修	1 名	外部

2. 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者 の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位： 千円)
<p>地域住民への生活支援を通し、地域住民の相互関係や地域福祉に対する関心を高める取り組みを行う事業</p> <p>地域住民の集う場所を提供し、地域住民の相互関係や地域福祉に対する関心を高める取り組みを行う事業</p> <p>地域福祉向上のため調査、研究、提言を行う事業</p>	<p>会食会 サロン活動 地域の仲間作りを目的としたサークル活動</p> <p>ひこばえさんかんばん マルシ YELL ひこばえ建築委員会 ひこば YELL 共催</p>	<p>毎週金曜日 月～土随時</p> <p>場所 フォーラム ひこばえ 従事者 2人 (兼務)</p> <p>年1回 年3回</p>	<p>どなたでも</p>	<p>10,203 千円</p>
<p>児童福祉法に基づく児童厚生施設の設置運営 (うたの・ひこばえ児童館事業)</p>	<p>京都市児童館指針に基づく事業展開</p>	<p>学童保育 月～土 放課後～18時半 学休期間は8時～18時半</p> <p>場所 うたの・ひこばえ児童館 従事者 6人</p> <p>児童館事業 0～18歳までの児童とその保護者が集い、学び、つながれる場</p>	<p>0歳～18歳の児童及び保護者</p>	<p>32,839 千円</p>
<p>児童福祉法に基づく障害児通所支援事業 (放課後くらぶひこばえ・放課後くらぶひこばえ ふう事業)</p>	<p>児童福祉法に基づく障害児通所支援事業 放課後等デイサービス事業</p>	<p>月～金 13時半～17時半 土曜 10時半～17時半</p> <p>場所 フォーラム ひこばえ 従業者 8人</p>	<p>小学校1年生～18歳までで受給者証の発行された方</p>	<p>47,537 千円</p>

<p>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業 (就労支援事業所ひこばえ・ひこばえ me 事業)</p>	<p>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく就労継続支援 B 型事業及び生活介護</p>	<p>月～金 9 時半～16 時 場所 エバーコーヒー他 従業者 3 人 生活介護 従事者 6 人</p>	<p>18 歳以上で、受給者証が発行され利用を認められた方</p>	<p>35,504 千円</p>
--	---	--	-----------------------------------	----------------------